

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00340

研究課題名（和文）大和物語の総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Research on Yamato Monogatari

研究代表者

大井田 晴彦（OIDA, Haruhiko）

名古屋大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：70313179

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、平安中期の歌物語『大和物語』を総合的・多角的に研究するものである。まず、従来の研究成果を踏まえ、新たな知見と解釈を盛り込んだ注釈の作成を進めた。作品の主題や論理構造、物語としての本質を明らかにした注釈をめざした。この注釈作業と並行して、『大和』事典の作成に向けて重要事項を収集・整理した。『大和』の研究を進める一方、『竹取』『伊勢』『うつほ』など、平安前期物語に関するこれまでの論考をまとめ、『王朝物語の世界』を公刊した。本書には『大和』についての論述も多々含まれている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『大和物語』は、平安時代の代表的な歌物語の一つであり、当時の貴族社会における和歌の位相と実態を知る上での貴重な資料でもある。勅撰集・私家集・物語・日記文学との交渉・関係も無視できない。この作品についてはすでに多くの優れた注釈も備わっているが、最新の研究成果を踏まえた新たな注釈が求められている。また、『大和』のみならず歌物語の読解・研究に資する、重要項目を網羅・整理した辞（事）典の必要性が高まっている。こうした注釈・辞（事）典によって『大和』および歌物語研究の水準が大きく引き上げられることになる。ひいては、王朝文学研究一般、歴史学などの隣接諸領域にも裨益することが大きい。

研究成果の概要（英文）：This research is a comprehensive and multifaceted study of Yamato Monogatari. Based on previous research results, I proceeded with the creation of annotations incorporating new findings and interpretations. I clarified the subject matter, logical structure, and narrative essence of this work. In parallel with this annotation work, I collected and organized important matters for the creation of the Yamato Monogatari encyclopedia. On the other hand, he published The World of Dynasty Monogatari by summarizing his previous discussions on tales in the early Heian Period, such as Taketori Monogatari, Ise Monogaari, and Utsuho Monogatari. This work also contains many articles on "Yamato Monogatari."

研究分野：日本文学

キーワード：大和物語 歌物語 勅撰集 私家集

1. 研究開始当初の背景

『大和物語』は、『伊勢物語』と並ぶ平安朝歌物語の重要な作品であり、多くの優れた研究が積み重ねられ、注釈書にも恵まれてきた。特に、作中人物に関する考証は、この物語の研究の主流をなしてきた。登場人物が、業平の周辺に限られる『伊勢物語』との大きな相違である。優れた考証的研究の蓄積にもかかわらず、まだ特定できない人物は多い。人物の正確な特定が、章段を正しく読み解くことになる。従来の研究成果を踏まえ、史実と虚構の物語の論理の双方に目配りしつつ、さらに考証を精緻なものとしてゆく必要がある。人物考証に比べ、肝心の和歌についての研究はやや遅れがちである。和歌一首一首について、丁寧に解釈し直す必要に迫られている。作品の性格上、歌人の閲歴や史実へと関心が集中するのは必然ではあるが、和歌や語り口といった表現面から、虚構の物語、文学作品として『大和』を捉える視点も重要であり、『伊勢』に比してやや低い評価を与えられがちな『大和』の再評価をめざす。研究代表者は、これまで『竹取』『伊勢』『うつほ』『源氏』の各物語を幅広く研究してきた。特に近年は『伊勢物語』の研究に集中的に取り組んできた。その過程で『大和物語』にふれる機会も多かった。『伊勢』との違いの大きさに気づかされると同時に、和歌・物語文学史上、避けては通れぬ重要な作品であるとの確信を持つに至った。百六十～百六十六段の、いわゆる在中将章段は、『伊勢物語』と共通する和歌・話柄を多く含んでいるが、『伊勢』の模倣や踏襲にとどまらない。『伊勢』を強く意識しつつ独自の物語を目指そうとしている。業平とは無縁の段でも、『伊勢』を意識し、踏まえたと思われる段がいくつか見られる。また、『伊勢』には見られない、多様な物語が『大和』には語られている。登場人物と話題の広がりも『大和』の魅力の一つである。例えば、恋に悩む僧侶を語る話などは、『伊勢』には見られぬものである。『伊勢』のような主人公を持たない『大和』は、雑多な歌語りの集積に過ぎず、散漫で、統一した主題もないかのように見なされがちであり、文章も冗長との否定的な評価を与えられてきた。しかし、『大和』なりの、作品を統括する論理や主題は必ずあるはずである。そうした問題を究明したいという意識が、本研究の始発にある。

2. 研究の目的

先述したように『大和物語』は、『伊勢物語』と並ぶ重要な歌物語である。後の文学作品に与えた影響も大きい。歌人達が実名で登場し、歌を詠む『大和』は、平安中期の和歌史の動向を知る上での第一級の資料でもある。人物考証を中心とする研究の蓄積を踏まえた優れた注釈も多く発表されてきた。しかし、まだ究明されていない点も少なくない。また、史実との関連が強いため、史実と密着しすぎ、虚構の物語としての特徴、文学性などが軽視されてきた。史実との異なり、物語の構造・配列、主題性・論理、成立と作者、などあらためて考えるべき問題は多い。最新の研究成果を踏まえつつ、作品の文学性も重視した新しい『大和』注釈が求められており、その作成をめざす。注釈作業と並行して、『大和』に関する重要事項を収集・整理し、物語の読解・研究の指針となる『大和物語事典』の作成をめざす。『大和』に特化した事典はこれまでなく、貴重なものとなるはずである。『大和』は、王朝和歌と物語に関するさまざまな情報の宝庫であり、その情報を整理し、活用できる形にすることは、王朝文学のみならず、日本文学研究一般に対して大きな恩恵となるはずである。ひいては歴史学・国語学などの隣接諸学にも裨益するところが大きいと期待される。このように文学史的に高い価値を有する『大和』の多角的・総合的な研究をめざす。

3. 研究の方法

本研究は、大きく2つの柱からなる。第一は、これまでの研究成果を取り込みつつ、研究者独自の知見と解釈を盛り込んだ、新しい『大和物語』注釈の作成である。第二には、『大和物語』読解と研究の指針となるべき『大和物語事典』の作成である。まず注釈については、本文・語釈・現代語訳といった、オーソドックスな形式を採るが、特に評釈(鑑賞)の充実をめざす。各章段の語り口や和歌の表現に留意し、文学的な読解と鑑賞を重視したい。また文学史への目配りも欠かせない。『大和物語事典』については、以下の内容と構成を計画している。 諸本について 注釈について 作中人物

総覧 和歌総覧 享受の実態について 全自立語索引・重要語辞典 話型・モチーフ である。 は、『大和物語』の諸本について調査し、書誌を整理する。この物語の本文を集成した労作に、阿部俊子『校本大和物語とその研究』(1954年、三省堂)、本多伊平『大和物語本文の研究 対校篇』(1980年、笠間書院)がある。以後の本文研究の成果を踏まえて、新校本の作成をめざす。 は、近世の注釈書から近現代に至る諸注釈について、書誌を整理、その注釈の是非についても検討する。 作中人物総覧は、物語における呼称、登場する章段について一覧・検索できるようにする。また、その人物に関する史資料を精査、掲載することで、実像に迫る。作中人物一人一人について検証を重ねることで、当時の歌人たちの交流圏の実態が明らかとなり、さらには物語の成立圏、作者(编者)の究明につながることを期待できる。 は、作中の和歌について、他出(後撰集や私家集、物語など)、類歌・参考歌などを精査、掲出する。『大和』の和歌の特質を考察しつつ、和歌史における『大和』の位置づけを明らかにする。『伊勢物語』や『後撰集』の和歌と比較し、歌ことばや歌枕、修辞技法などに着目することで『大和』の和歌の性格や時代性が明らかになる。 は、他作品の『大和物語』の受容、影響についての研究である。特に『源氏物語』や『新古今集』などの中世和歌との関連に着目したい。『大和』は『源氏』に少なからず素材を提供している。最も引用される藤原兼輔の「人の親の心は闇にあらねども～」の名歌は、『大和』四十五段(および『後撰集』雑一)に見られる。他にも両物語の接点をうかがわせる事例は少なくなく、深く掘り下げてゆくべき問題である。『源氏』の引用論・准拠論に新たな視角を提供する。中世和歌において『大和』は『伊勢』『源氏』とともに必読の書であった。『大和』を書写した定家は、『新古今集』『新勅撰集』の編纂においても、この物語を重視している。『大和』が中世和歌の表現を豊かにした実態についても明らかにする。 は、物語中の全自立語の索引を作成するとともに、頻出する特徴的な語句や重要と思われる語句について、その意味や用法について説明を加えるものである。 は、この物語に見られる豊富な話型・モチーフについての研究である。『大和』には類似・共通する話柄が繰り返されるといふ特徴が認められる。類話を繰り返し、積み重ねながら物語を形成してゆく、『大和』の章段構成の方法を解明する。

4. 研究成果

研究期間中6本の論文、2回の口頭発表、1本の著書(単著)を発表した。「伊勢物語の「翁」と「みやび」」(『名古屋大学人文学研究論集』第4号、2021年3月)は、主人公が「翁」と称される、いわゆる翁章段を、和歌と政治権勢のかかわり、ひいては「みやび」の観点から論じたものである。二条后と「翁」となった主人公の悲恋を語る『伊勢』七十六段は、類似の話が『大和物語』百六十一段に見られるが、『大和』では「在中将」とあり、相違点も少なくない。『伊勢』と『大和』の性格を比較した。「俊蔭は心ざしもかなひて 『うつほ物語』から『源氏物語』へ」(『国語と国文学』第98巻7号、2021年7月)では、多くの苦難を経て栄花を実現、獲得してゆく『うつほ』の俊蔭一族の物語がどのように『源氏』の明石一族の物語へと継承されてゆくかを明らかにした。「朧月夜論」(『名古屋大学人文学研究論集』第5号、2022年3月)は、光源氏の人生に深く関わる、この女君の人物造型を多角的に検証した。名古屋大学国語国文学会大会シンポジウム(2020年12月)での口頭発表「王朝文学と病」を論文化した「王朝物語における疫病」(『疫病と日本文学』(2021年7月、三弥井書店)は、現代

と同様に疫病が猛威を振るった平安時代における文学と疫病のかかわりを、『枕草子』や『源氏物語』などを通じて幅広く考察した。名古屋平安文学研究会 2021 年 12 月例会発表「神域の恋 『伊勢物語』 斎宮章段をめくって 」を論文化した「神域の恋 『伊勢物語』 斎宮章段における王権と禁忌 」、『名古屋平安文学研究会会報』第 39 号、2022 年 6 月)は、『伊勢』の最重要章段である六十九段および一連の斎宮章段の禁忌性について、特徴的な表現の分析に即して論じた。「夕霧の恋 夕霧巻における 」(『名古屋大学人文学研究論集』第 6 号、2023 年 3 月)は、「まめ人」とされる夕霧が恋物語の主人公を演じる「夕霧」巻の主題と方法を明らかにした。

最終年度となる 2022 年度は、『大和物語』にとどまらず、研究代表者のこれまでの物語研究の集大成をめざすことを優先し、力を傾注した。その結果、著書(単著)『王朝物語の世界 『竹取』 『伊勢』 『うつほ』 そして『源氏』 へ』(2022 年 8 月、三弥井書店)をまとめた。副題の通り、物語文学全般を幅広く扱った論著であり、全四篇、二十五章からなる大部な著書となった。特に第二篇は『伊勢物語』を中心に『大和物語』および歌物語を論じている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 大井田晴彦	4. 巻 6
2. 論文標題 夕霧の恋ー夕霧巻におけるー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大井田晴彦	4. 巻 39
2. 論文標題 神域の恋ー『伊勢物語』斎宮章段における王権と禁忌ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋平安文学研究会会報	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大井田晴彦	4. 巻 98-7
2. 論文標題 俊隆は心ざしもかなひてー『うつほ物語』から『源氏物語』へー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 18-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大井田晴彦	4. 巻 5
2. 論文標題 朧月夜論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	6. 最初と最後の頁 393-413
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大井田晴彦	4. 巻 1
2. 論文標題 王朝文学における疫病	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 疫病と日本文学	6. 最初と最後の頁 179-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大井田晴彦	4. 巻 4
2. 論文標題 伊勢物語の「翁」と「みやび」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	6. 最初と最後の頁 373-385
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 大井田晴彦
2. 発表標題 神域の恋 『伊勢物語』 斎宮章段をめぐって
3. 学会等名 名古屋平安文学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大井田晴彦
2. 発表標題 王朝文学における病
3. 学会等名 名古屋大学国語国文学会大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大井田晴彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 547
3. 書名 王朝物語の世界 『竹取』『伊勢』『うつほ』そして『源氏』へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------